

現代社会学部 現代社会学科

学習の手引

2020

京 都 女 子 大 学

(2020年度入学生用)

■ 目次

1. 人材養成に関する目的、教育研究上の目的、学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針	(1)
2. カリキュラムマップ	(9)
3. 現代社会学部現代社会学科の特色と学習の流れ	(13)
4. 履修計画の作り方	(16)
5. プログラム科目について	(17)
社会調査プログラム	(17)
ビジネスプログラム	(19)
情報プログラム	(21)
国際理解プログラム	(23)
6. 現代社会学部カリキュラム全体の概要	(30)
7. 回生別開講科目一覧表	(33)
8. 履修条件のある科目	(35)
9. 履修相談について	(38)
10. 教員の研究室とメッセージ	(40)

1. 人材養成・研究教育上の目的

京都女子大学

「人材養成に関する目的」 教育目標

長く日本の政治・文化の中心であり続け、諸外国との活発な国際交流を通じて豊かな文化を育んできた街である京都の地にあって、体系的かつ実証的な学びを提供します。専門的知識・理解を深めるとともに、幅広い教養と汎用的技能、グローバルな視点を身につけられるようにします。その知識・理解・技能をもとに、主体的に認知する力、他者との相互理解に努める力、自ら課題を発見し解決できる力を養えるようにします。卒業後も学び続けられる、自立的な学習能力を身につけ、さらには、仏教精神を学ぶことを通して、宗教に対する正しい理解と正しい批判力とを身につけ、生涯を通じて、生きることを意味を問い続けられるようにします。他者と協働しつつ、適切なリーダーシップを発揮して組織・集団を先導し、高い倫理観と責任感とをもって社会に貢献できるようにします。

4年間の学びを通して、情緒豊かで高雅な、凜とした品位ある女性人材の養成を目指します。

1. 情緒豊かで高雅な、凜とした品位ある女性人材
2. 宗教に対する正しい理解と正しい批判力を身につけた女性人材
3. 広い教養と汎用的技能とを身につけた女性人材
4. 高い専門的知識・理解・技能をもった女性人材
5. 主体性・協調性をもった女性人材
6. 適切なリーダーシップを発揮できる女性人材
7. 市民として社会貢献できる女性人材

現代社会学部 「人材養成に関する目的」 教育目標

長く政治・文化の中心であり続け、諸外国との国際交流を通じて豊かな文化を育んできた街である京都の地にあって、現代社会を理解するうえで必要な諸学問分野について、体系的かつ実証的な学びを提供します。自然科学から人文・社会科学までの学問分野における専門的知識・理解を深めるとともに、幅広い教養と汎用的技能、グローバルな視点が身につけられるようにします。その知識・理解・技能をもとに、主体的に認知する力、他者との相互理解に努める力、自ら課題を発見し解決できる力を養えるようにします。卒業後も学び続けられる、自立的な学習能力を身につけ、さらには、仏教精神を学ぶことを通して、宗教に対する正しい理解と正しい批判力とを身につけ、生涯を通じて、生きることを意味を問い続けられるようにします。他者と協働しつつ、適切なリーダーシップを発揮して組織・集団を先導し、高い倫理観と責任感とをもって、社会に貢献できるようにします。

4年間の学びを通して、情緒豊かで高雅な、凜とした品位ある女性人材の養成を目指します。

1. 情緒豊かで高雅な、凜とした品位ある女性人材
2. 宗教に対する正しい理解と正しい批判力を身につけた女性人材
3. 広い教養と汎用的技能とを身につけた女性人材
4. 高い専門的知識・理解・技能をもった女性人材
5. 主体性・協調性をもった女性人材
6. 適切なリーダーシップを発揮できる女性人材
7. 市民として社会貢献できる女性人材

現代社会学科 「人材養成に関する目的」 教育目標

現代社会学部「人材養成に関する目的」のもと、現代社会を理解する上で必要な、体系的かつ実証的な学びを提供します。自然科学から人文・社会科学まで現代社会に関する専門的知識・理解を深め、4年間の学びを通して、情緒豊かで高雅な、凜とした品位ある女性人材の養成を目指します。

卒業後には、一般企業をはじめ、官公庁、自治体、NGO・NPOなどで、現代社会の諸分野についての深い素養を活かした分野で活躍できるよう期待しています。

京都女子大学 「教育研究上の目的」

京都女子大学 「学位授与の方針」

京都女子大学では、以下のような能力を修得した者に学位を授与します。

(1) [知識・理解]

- ①専門分野について、高度の知識・理解・技能を有している。
- ②人文、社会、自然など、広い教養を有している。
- ③宗教に対する正しい理解と正しい批判力を有している。

(2) [汎用的技能]

- ①日本語を正確に理解・表現できる。
- ②母語以外の特定の外国語が運用できる。
- ③数量データを含む多様な情報を収集・分析・表現し、活用できる。
- ④情報通信技術（ICT）を活用することができる。

(3) [思考・判断]

- ①主体的で批判的・合理的な思考を展開できる。
- ②専門分野の知識・理解等に拠りつつ、広い視野と根拠に基づいて判断できる。
- ③主体的に課題を発見・解決できる。

(4) [対話・相互理解]

- ①様々な状況に応じた、適切な表現・理解、態度による対話ができる。
- ②対話・議論を通して、他者（異文化も含めて）との相互理解・協調に努めることができる。

(5) [社会性・自律性]

- ①高い倫理観を備え、市民としての社会的責務に対する自覚を有している。

- ②社会の規範やルールに従って、自らを律して行動できる。
- ③組織の中で、自らの専門的知識・理解・技能、個性や能力を活かして協働できる。
- ④適切なリーダーシップを発揮できる。
- ⑤専門的知識・理解・技能等を活用して、社会に貢献できる。

(6) [自立性]

- ①卒業後も生涯を通じて学び続けられるよう、自立的な学習能力を身につけている。

現代社会学部 現代社会学科 「学位授与の方針」

現代社会学科では、以下のような能力を修得した者に学位を授与します。

(1) [知識・理解]

- ①現代社会の諸分野について、高度の専門的知識・理解・技能を有している。
- ②人文、社会、自然など、広い教養を有している。
- ③宗教に対する正しい理解と正しい批判力とを有している。

(2) [汎用的技能]

- ①日本語を正確に理解・表現できる。
- ②母語以外の、特定の外国語が運用できる。
- ③数量データを含む多様な情報を収集・分析・表現し、活用できる。
- ④情報通信技術（ICT）を活用することができる。

(3) [思考・判断]

- ①主体的で批判的・合理的な思考を展開できる。
- ②現代社会の諸分野の知識・理解等に拠りつつ、広い視野と根拠に基づいて判断できる。
- ③主体的に課題を発見・解決できる。

(4) [対話・相互理解]

- ①様々な状況に応じた、適切な表現・理解、態度によって対話ができる。
- ②対話・議論を通して、他者との相互理解・協調に努めることができる。

(5) [社会性・自律性]

- ①高い倫理観を備え、市民としての社会的責務に対する自覚を有している。
- ②社会の規範やルールに従って、自らを律して行動できる。
- ③組織の中で、自らの専門的知識・理解・技能、個性や能力を活かして協働できる。
- ④適切なリーダーシップを発揮できる。
- ⑤現代社会の諸分野の専門的知識・理解・技能等を活用して、社会に貢献できる。

(6) [自立性]

- ①卒業後も生涯を通じて学び続けられるよう、自立的な学習能力を身につけている。

京都女子大学 「教育課程編成・実施の方針」

京都女子大学では、「学位授与の方針」に掲げた能力を修得させるため、主に幅広い教養や汎用的技能の修得を目指す「共通領域」と、高度の専門的知識・理解・技能を修得するための「専門領域」とを設け、それぞれを体系的に編成します。

共通領域科目と専門領域科目との連携による体系的課程において、汎用的な、また専

門的な知識・理解・技能を基に、主体的に認知する力、他者との相互理解に努める力、自ら課題を発見し解決できる力、卒業後も学び続けられる自立的学習能力などを養成します。

教育内容、教育方法について、以下のように定めます。

(1) 教育内容

1) 共通教育においては、建学の精神を学ぶ科目である「仏教学」において、宗教についての正しい理解と正しい批判力とを養います。人文・社会・自然などにわたる幅広い教養とともに、日本語・外国語を適切に表現し理解する言語運用能力や、多様な情報を収集・分析・活用・発信できる能力など、汎用的能力を身につけられるようにします。また、一人ひとりの学生が将来に向けたキャリアビジョンを確立するためのキャリア教育を行い、生涯を通じて健康に活躍できるための健康科学教育も行います。こうして、大学での学修も含めた、生涯にわたる、力強い学びの基礎を形づくりします。

2) 専門教育においては、共通領域科目との連携を図りながら、各専門分野について高度の知識・理解・技能を身につけます。学年・セメスターの進行ごとに学びを高め深めていく段階性に留意しつつ、それぞれの分野の専門性に基づき、必要に応じて履修上の区分を設けるなど、体系的な科目配置を行うことによって、各専門分野の学びを確かなものとし、極めて高い達成を目指します。

3) 学修内容に応じ、講義、演習、実験・実習といった最も適切な形態による授業を開講します。卒業年次には、学士課程の集大成として、それまでの学修を総合して指導教員の個別指導を受けつつ、卒業論文または卒業研究に取り組むことを必修とします。

(2) 教育方法

1) 1回生から卒業回生にいたるまで、すべての学年で、少人数演習を必修科目において開講し、調査やレポート作成、プレゼンテーション、ディスカッション等を通して、主体的で合理的な思考、問題発見・解決能力、多角的な視野、対話により相互理解に努めることができる力等を養います。

2) アクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法をすべての少人数科目で用い、多人数科目においても、極力、取り入れます。

全学共通領域 「教育課程編成・実施の方針」

1年次からの「共通領域」は、「仏教学」、「言語コミュニケーション科目」、「京女の教養学」、「情報コミュニケーション科目」、「健康科学科目」、「キャリア形成科目」、「連携活動科目」の7区分から構成されています。

「仏教学」においては、親鸞聖人の体せられた仏教精神を学ぶことを通して、宗教に対する正しい理解と正しい批判力とを身につけられるようにします。

「言語コミュニケーション科目」においては、外国語運用能力を身につけるだけでなく、その言語の母胎となった文化も理解できるようにします。異文化理解をもとに、自らの文化について客観的・批判的に考える力を養うとともに、相互理解における課題を

見出し解決する能力を身につけ、グローバル社会に主体的に参加し得る能力の確立を目指します。

「京女の教養学」においては、人文科学系、社会科学系、自然科学系の広い分野にわたる学びを通して、様々な問題や課題の性質と構造を見極め、合理的かつ適切な解決方法を構想し実行していくための基盤となる教養が身につけられるようにします。

「情報コミュニケーション科目」においては、ICT化の急速な進展にともない必須となった、情報機器を用いての情報の収集・分析・活用・発信に必要な知識・技能が身につけられるようにします。

「健康科学科目」においては、生涯をとおして健康で健全に過ごし社会で活躍するための心身の基礎作りについて学び、スポーツ文化に対する認識を深めて、健康についての知識・技能が身につけられるようにします。

「キャリア形成科目」においては、特に女性の視点に立って社会の実態を学び、ライフキャリアデザインを描いて、卒業後の自己実現を成就するための基盤が身につけられるようにします。

「連携活動科目」においては、将来、地域社会の女性リーダーとして社会に貢献できる能力を養うことを目指して、地域社会の構造と地域が直面している課題についての理解を深め、地域連携活動への主体的な従事を促します。連携活動に関する基礎知識と活動の意義を理解し、自治体や各種団体・組織、企業の寄附講義から社会の多様な側面について幅広い知識を身につけられるようにします。

共通領域各科目の教育課程は、それぞれ、以下のようになっています。

(1) 仏教学

必修科目において、釈尊が示された仏教の基本理念を中心に学び、それらが現代の人間の生き方にどのような意義をもつかを学びます。さらに、大乘仏教の「一切衆生救済」を具体的に開顕した浄土教の意義を学び、特に親鸞聖人の体せられた仏教精神を学ぶことを通して、宗教に対する正しい理解と正しい批判力とを身につけられるようにします。

その上で、発展科目（アドバンスト科目）を選択履修し、仏教が現代を生き抜く智慧であることや、仏教思想家たちが重ねてきた思索について学び、生涯を通じて、生きることの意味を、さらに深く問い続けられるようにします。

(2) 言語コミュニケーション科目

必修科目の英語では、レベル別授業によって習熟度を総合的に向上させます。英語に加えて、ドイツ語、フランス語、中国語、コリア語のなかから1言語を選択必修とし、多言語の基礎的語学力を修得します。異文化間コミュニケーションにおいて、互いの価値観を相対化し、問題に柔軟に対処する姿勢を学ぶことにより、多様な人々と円滑にコミュニケーションを行うための素地を養います。自宅でも学べるeラーニング環境を整え、主体的な学びを推進します。

その上で、様々な発展科目（アドバンスト科目）を選択履修し、さらに多言語運用能力を、より高度なものとしします。

(3) 京女の教養学

9つのテーマに基づく人文科学系・社会科学系・自然科学系の授業を選択受講して、多様な社会で生きる力、他者との相互理解に努める力を修得して、市民としての自覚やコミュニケーション能力を身につけます。また、社会や時代のキーワードに直結する、世界の現在（いま）を学ぶ一方、京言葉や、伝統芸能、食文化など、華麗で芳醇、奥深い京都の芸術・文化を学びます。

いずれも、女性が生きるための正しい判断力や批判的・合理的に考える力を養うと共に、社会や自己を科学の眼で捉え、自ら課題を発見し、解決する力を身につけ、対話能力を高めます。

(4) 情報コミュニケーション科目

必修科目では、ICTの利活用スキル、データベースの利用など情報収集・活用、レポート・論文作成、統計学等の情報系スキルを修得するとともに、ビジュアル表現、プレゼンテーション、情報デザインなどの学びの基礎を固めます。基礎理論と主体的実践との統合的学修を通して、情報活用の基礎知識を学び、批判的・合理的に考える能力と汎用的スキルを養うと共に、課題発見力や課題解決力を身につけ、情報の分析力を生かして対話能力も高めます。

選択履修する発展科目（アドバンスト科目）では、情報処理・知識処理技術等に関する学びを、さらに深めます。

(5) 健康科学科目

必修科目の講義では、健康づくり・体力づくりの基礎的知識を学ぶと共に、身体活動と健康の関わりや身体活動の必要性を理解し、生涯スポーツへの動機づけを明確にします。

選択履修の実技科目では、生涯にわたって運動習慣が継続できる実践能力の習得と運動処方（体力づくり）の基礎を学びます。体力面だけでなく、授業を通じて自律、自我、協調性を確立するための生きる力を養うライフスキルの形成を目指します。

(6) キャリア形成科目

キャリア教育全体の中で将来の目標を立て設計すること、及びその実現に向かって積極的に取り組むことができるよう、働くことの意義も含めた社会や環境の実態についての基礎的知識の修得を目指します。

1年次の科目では、女性を取り巻く社会変化や女性の就労実態などを知り、女性の生き方を考えることで、自分の可能性を探るとともに、自らの将来・学びをイメージします。さらに、卒業生の体験談を聞くことやグループワークを通して、大学での学びが卒業後の仕事とどのようにつながっているのかを学びます。主体的に調査し、批判的・合理的に考える力を養うとともに、課題発見力や課題解決力を身につけ、対話能力も高めます。

発展科目（アドバンスト科目）では、企業・業界研究やワーク・ライフ・バランスなどの内容もとり入れて、さらに学びを深めます。

(7) 連携活動科目

「連携活動入門」では連携活動の社会的意義、企業の社会貢献活動の背景と実態を

学ぶとともに、京都市内で行なわれている具体的な連携活動の機会を紹介することを通して活動に従事することを促します。

「連携課題研究」は、地域社会が抱える課題の発見能力と課題解決能力を養うことを目指して、自ら地域や企業の課題を探索し、企業や市民との協働活動を通して課題解決の方策を探ることが出来るように構成します。また、企業や市民に提案することでプレゼンテーション能力を養うことを目指します。

「地域連携講座」は本学の就職協定締結先の自治体職員や、連携協定先の自治体、各種機関、市民団体からゲストスピーカーを招き、実務家の講義を通して地域社会の現状、課題を学ぶことにより、実態に即した地域社会に関する広範な知識の獲得を目指します。

「産学連携講座」は様々な企業・団体の寄附講義により、企業の社会的役割や地域社会の発展と企業の関係、金融界・産業界の仕組み、労働者保護の法律や仕組みなどを学びます。

現代社会学部 現代社会学科 「教育課程編成・実施の方針」

学位授与の方針に基づいて、1年次からの共通教育においては、宗教に対する正しい理解と正しい批判力とを養います。幅広い教養とともに、言語運用能力や情報リテラシーなど、汎用的能力を身につけ、また、キャリアや健康科学についても学びます。専門領域においては、現代社会に必要な学際的な視野を身につけます。また、各自が選択し専門とする個別分野における極めて高い達成との両立を目指します。全学的教育理念であるアクティブ・ラーニングと少人数教育とを汎領域的教育方法として、体系的に配置された共通領域科目・専門領域科目での学びを、4年間、段階的に進めることで、学年・セメスターの進行ごとに学びを高め深めていきます。

専門領域の教育課程は、以下のようになっています。

1年次では、自然科学から人文・社会科学までの幅広い分野のアプローチ科目を履修し、現代社会を理解する上で必要な基礎的知識を学びます。また、スキル科目や基礎演習などを通じ、現代社会を生きる上で必要な技能やコミュニケーション能力を身につけます。また、2年次以降の発展的講義では、専攻ごとの教育課程の方針のもと、固有の授業科目群が編成され実施されます。各専攻には、プログラム科目が配置され、意欲のある学生は発展的な学びを、さらに追求できます。

【現代社会専攻】

2年次の発展的講義では、現代社会が直面する人文・社会・自然各領域における諸課題についての学びを深めます。また、1セメスターあたり1つのテーマに関するゼミを選択して少人数の演習形式で学び、主体的に調査し考える力を養います。この2年次演習では、プレゼンテーションや質疑応答の仕方についても学びます。

3年次の発展的講義では、現代社会の諸課題についての学びをさらに深めていきます。また、卒論作成に向けて各自のテーマ関心に応じたゼミを選択し、主体的に調査し、かつ批判的・合理的に考える力を養うとともに、課題発見力や課題解決力を身につけ、対話能力も高めていきます。

【国際社会専攻】

2年次の発展的講義では、国際社会が直面する、政治・経済各領域における諸課題についての学びを深めます。また、1セメスターあたり1つのテーマに関するゼミを選択して少人数の演習形式で学び、主体的に調査し考える力を養います。この2年次演習では、プレゼンテーションや質疑応答の仕方についても学びます。

3年次の発展的講義では、国際社会の諸課題についての学びをさらに深めていきます。また、卒論作成に向けて各自のテーマ関心に応じたゼミを選択し、主体的に調査し、かつ批判的・合理的に考える力を養うとともに、課題発見力や課題解決力を身につけ、対話能力も高めていきます。

【情報システム専攻】

2年次の発展的講義では、現代社会が直面する、情報科学・情報工学領域における諸課題についての学びを深めます。また、1セメスターあたり1つのテーマに関するゼミを選択し演習形式で学び、主体的に調査し考える力を養います。この2年次演習では、プレゼンテーションや質疑応答の仕方についても学びます。

3年次の発展的講義では、情報システムの諸課題についての学びをさらに深めていきます。また、卒論作成に向けて各自のテーマ関心に応じたゼミを選択し、主体的に調査し、かつ批判的・合理的に考える力を養うとともに、課題発見力や課題解決力を身につけ、対話能力も高めていきます。

各専攻とも、4年次では分野を1つに絞って、一段と専門性の高い知識・技能を身につけ、指導教員の個別指導の下、4年間の学修を総合した卒業論文を執筆し、生涯にわたって学び続ける能力の確立を目指します。

2. カリキュラムマップ

この「カリキュラムマップ」は、学位授与の方針にある6つの能力と個々の授業科目(群)との関連性を示しています。

表の見方は、各科目において、学位授与の方針にある6つの能力と特に深い関連性のある項目が◎、ある程度関連性のある項目に○を付しています。印が無い項目についても無関係という意味ではなく、相対的に関連性が低いと理解してください。

学生のみなさんにとって、実際に受講する科目が卒業後にどのような力として身についているか知ることができる一覧となっています。

科目名		(1) 知識・理解	(2) 汎用的技能	(3) 思考・判断	(4) 対話・相互理解	(5) 社会性・自律性	(6) 自立性
共通領域科目	仏教学	◎					○
	言語コミュニケーション科目	○	◎		○		
	教養科目	◎		○	○		
	情報コミュニケーション科目	○	◎		○		
	健康科学科目	○				◎	
	キャリア教育科目			○		◎	○
	現代社会入門Ⅰ	○				◎	
外国語科目	現代社会入門Ⅱ	◎				○	
	ジェンダーと現代社会	○		○			◎
	専門英語Ⅰ	○	◎		○		
	専門中国語Ⅰ	○	◎		○		
	専門韓国語Ⅰ	○	◎		○		
	専門英語Ⅱ	○	◎		○		
	専門中国語Ⅱ	○	◎		○		
情報科目	専門韓国語Ⅱ	○	◎		○		
	専門英語Ⅲ	○	◎		○		
	専門英語Ⅳ	○	◎		○		
	数学入門	◎					
	基礎数学Ⅰ	◎					
	基礎数学Ⅱ	◎					
	数理モデル	○	◎				
調査科目	統計学	○	◎				
	プログラミング入門	◎	○				
	応用プログラミングⅠ	○	◎				
	コンピュータ・ネットワークⅠ	◎	○				
	コンピュータ・ネットワークⅡ	○	◎				
	社会データ処理基礎		◎	○			
	社会データ分析入門		◎	○			
調査科目	社会データ分析実践	○	○	◎			
	社会調査法Ⅰ	○	◎	○			
	社会調査法Ⅱ	○	◎	○			
	社会調査法Ⅲ	○	◎	○			
	哲学アプローチ	◎					
	社会学アプローチ	◎		○			
	経済学アプローチ	◎	○				
調査科目	法学アプローチ	◎					
	情報学アプローチ	◎	○	○			
	政治学アプローチ	◎		○			
	心理学アプローチ	◎					
	経営学アプローチ	◎	○				
	環境学アプローチ	◎					
	国際関係論アプローチ	◎				○	

科目名		(1) 知識・理解	(2) 汎用的技能	(3) 思考・判断	(4) 対話・ 相互理解	(5) 社会性・ 自律性	(6) 自立性
人間・ 環境 クラスター	倫理学	○		○		◎	
	人間学	◎				○	
	自然環境と生態系	◎	○	○			
	環境政策論	◎	○	○			
	生命倫理学	◎		○		○	
	生命の起源と進化	◎		○			
	現代人権論	◎	○			○	
	多様性の生物学	◎	○				
	環境開発論	○	◎				
	応用倫理学	◎	○			○	
	エネルギーと環境	○	◎				
	環境社会学	○		◎			
心理・ 文化 クラスター	臨床心理学	◎		○			
	文化人類学	○			◎		
	社会学概論	◎	○		○		
	社会心理学	◎				○	
	文化社会学	◎	○	○			
	ニューロサイエンス概論	◎					
	精神医学概論	◎					
	メディア文化論	○	◎				
	労働の社会学	○	◎				
	人間関係の心理学	○			◎		
	比較文化精神医学	◎		○			
	現代宗教論	◎			○		
家族・ 地域 社会学 クラスター	家族社会学	◎		○			
	福祉と家族	◎	○	○			
	地域社会学	○		◎		○	
	市民活動論	◎		○			
	家族法	◎	○				
	民俗文化論	○	◎				
	国際結婚論	◎	○		○		
	比較家族史	○			◎		○
	ジェンダーと法	◎	○	○			
	家族経済論	○		◎			
	家族の人類学	○			◎		
	ジェンダーの社会学	◎	○	○			
政治・ 公共 政策 クラスター	政治過程論	○	◎	○			
	マイノリティと法	◎		○			
	日本国憲法	◎	○	○			
	行政学	○	◎	○			
	法社会学	◎		○			
	民法	◎	○	○			
	比較政治論	○	◎				
	行政法	◎	○	○			
	社会福祉論	○	◎				
	地方自治論	◎	○	○			
	都市政策論	◎	○				
	労働法	◎	○	○			
	社会保障制度論	○	◎			○	

科目名		(1) 知識・理解	(2) 汎用的技能	(3) 思考・判断	(4) 対話・相互理解	(5) 社会性・自律性	(6) 自立性
経済・ビジネスクラスター	マクロ経済学	○	○	◎			
	ミクロ経済学	○		◎			
	経営戦略論	○	○	◎			
	簿記Ⅰ		◎	○			○
	金融論	○	○	◎			
	財政学	○	○	◎			
	組織マネジメント論	○		◎			
	簿記Ⅱ		◎	○			○
	国際経営論	○		◎			
	マーケティング論		○	◎			
	会計学		○	◎			
	日本経済史	○	○	◎			
	教育経済学	○		◎			
	マーケティング分析		○	◎			
情報クラスター	アルゴリズム論	○		◎			
	情報数学	◎	○	○			
	社会情報学	◎	○				
	情報ネットワーク	◎	○	○			
	情報文明論	◎		○		○	
	ロボット社会論	◎	○			○	
	情報理論	◎	○	○			
	情報セキュリティ	◎	○	○			
	データベース	◎	○				
	応用データベース	○	◎				
	知能情報学	◎	○				
	Webシステムデザイン		◎	○			
国際社会クラスター	現代ヨーロッパ論	◎		○	○		
	現代アジア論	◎		○	○		
	現代アフリカ論	◎		○	○		
	現代北米論	◎		○	○		
	国際関係論	◎		○			
	現代イスラーム地域論	◎		○			
	現代ラテンアメリカ論	◎		○	○		
	国際法	○		◎			
	国際関係史	◎		○		○	
	国際経済学	○	○	◎			
	国際観光論	◎		○		○	
	多文化社会論			○	◎		
	現代世界経済論	○	○	◎			
	現代世界経済論	○	○	◎			
社会調査	ソーシャル・リサーチⅠ		◎	○		○	
	ソーシャル・リサーチⅡ	○	◎	○			
	フィールド・ワークⅠ		◎	○		○	
	フィールド・ワークⅡ	○	◎	○			
ビジネス	簿記Ⅲ		○	◎			
	サービス経営特論			◎	○		
情報	応用プログラミングⅡ	○	◎			○	
	ヒューマンコンピュータインタラクション	◎		○			
	応用ネットワーク	○	◎			○	
	プロジェクト管理	◎		○			
	ネットワーク運用	○	◎			○	
	情報技術者の社会的責任	◎		○		○	

科目名		(1) 知識・理解	(2) 汎用の技能	(3) 思考・判断	(4) 対話・ 相互理解	(5) 社会性・ 自律性	(6) 自立性
国際理解	多文化理解実習			○	◎		
	国際協力論	○		◎	○		
	短期英語研修A	◎	○		○		
	短期英語研修B	◎	○		○		
	Japan Studies 1	◎	○		○		
	Japan Studies 2	◎	○		○		
	Study Abroad A I	◎	○		○		
	Study Abroad A II	◎	○		○		
	Study Abroad A III	◎	○		○		
	Study Abroad A IV	◎	○		○		
	Study Abroad A V	◎	○		○		
	Study Abroad A VI	◎	○		○		
	Study Abroad A VII	◎	○		○		
	Study Abroad A VIII	◎	○		○		
	Study Abroad B I	◎	○		○		
	Study Abroad B II	◎	○		○		
	特講A	◎					
	特講B	◎					
	特講C	◎					
	特講D	◎					
	日本史概論	◎					
	東洋史概論	◎					
	西洋史概論	◎					
	歴史地理学概論	◎					
	人文地理学概論	◎					
	地誌学概論	◎					
	自然地理学概論	◎					
	基礎演習 I			◎	○		
	基礎演習 II			◎	○		
	演習 I			◎	○		
	演習 II			◎	○		
	演習 III			◎	○		
	演習 IV			◎	○		
	演習 V			◎	○		
	演習 VI			◎	○		
	卒業論文	○		○		◎	
発展領域・自由	連携活動科目				○	◎	○
	他大学単位修得科目	◎	○				
	語学研修科目		○		◎	○	

3. 現代社会学部現代社会学科の特色と学習の流れ

現代社会学部現代社会学科は、1 学部 1 学科 3 専攻で、幅広い学習・研究の機会を学生に提供しています。現代社会学部での学びの骨組みをできるだけ簡単に述べれば、「現代社会を研究するために、共通領域の授業で広い教養を身につけ、導入科目・スキル科目・アプローチ科目で基本的知識とスキルを身につけつつ、2 回生から主・副 2 つのクラスター科目を中心に学び、演習に所属して卒業論文を書く」ということになります。また、意欲的な学生のためにさらに 4 つの「プログラム」を用意しています。以下で、4 年間の学習の流れを説明しながら、現代社会学部の特色を紹介します。

1 回生

1 回生は大学での学習の基礎を徹底的に身につけます。仏教学、言語コミュニケーション科目、情報コミュニケーション科目、健康科学科目など卒業するために必修の科目が 1 回生に集中しています。これら共通領域の科目に加えて、現代社会の問題を考える上で必要な人文・社会・自然科学の幅広い分野の基本を導入科目・アプローチ科目などを通じて学びます。基礎演習では、専門書の読み方、レポートの書き方などアカデミック・スキルを習得します。

現代社会学部の学生は、「現代社会専攻」「国際社会専攻」「情報システム専攻」の 3 つの専攻のいずれかに所属します。この 3 つの専攻については下記に説明します。なお、国際社会専攻の場合は、アプローチ科目として必ず「国際関係論アプローチ」を履修してください。また、情報システム専攻の場合は、必ず、スキル科目の「プログラミング入門」と、アプローチ科目の「情報学アプローチ」を履修してください。

3 つの専攻

1 回生前期で履修する「基礎演習Ⅰ」は所属している専攻の教員の担当授業を履修しますが、後期で履修する「基礎演習Ⅱ」は専攻に関わらず担当するすべての教員から選択して履修します。2 回生で履修する「演習Ⅰ・Ⅱ」は所属している専攻の教員の担当授業を履修します。さらに、3・4 回生で履修する「演習Ⅲ～Ⅵ」は、所属している専攻の教員の担当授業を 2 年間継続して履修することになります。

なお、転専攻（専攻の変更）については、2 回生もしくは 3 回生にあがる時に可能ですが、ゼミ選択の時期に申請する必要がありますので、前年の 10 月末までにゼミの担当教員もしくは教務委員長に申し出てください。

3 つの専攻はそれぞれ以下のような特色の教育を行います。

[現代社会専攻]

現代社会専攻は、人文・社会・自然諸科学にまたがる幅広い分野の科目の修得を通して、現代社会の諸課題に対処できる力を修得します。学生は、主クラスターとして「人

間・環境」「心理・文化」「家族・地域社会」「政治・公共政策」「経済・ビジネス」から1つを選択し、副クラスターとして「国際社会」「情報」を含めた全クラスターから1つを選択します。さらに意欲のある学生は、社会調査プログラムやビジネスプログラムを選択することが推奨されます。

〔国際社会専攻〕

国際社会専攻では、グローバルな視点を身につけるために、語学力を向上させつつ、国際社会の多様な現状を学びます。「国際社会」を主クラスターとし、他の6クラスターのうち1つを副クラスターとします。また、実践的な外国語コミュニケーション力養成のために、意欲的な学生は、国際理解プログラムを選択して、海外の大学での短期英語研修や国際交流協定校での半期留学への参加等が推奨されます。

〔情報システム専攻〕

情報システム専攻では、情報システムと現代社会の関係を複眼的に学ぶために、「情報」を主クラスターとし、他の6クラスターのうち1つを副クラスターとして組み合わせます。情報科学の知識と情報工学の技術を、少人数で集中的に学習します。また意欲のある学生は、情報プログラムで、情報システムについての高度な知識と技能を身につけ、情報技術が現代社会に及ぼす影響を深く洞察し行動できることを目指します。

2 回生

2 回生からは、現代社会学部の特色である「クラスター制」という枠組みのなかで学習を深め、さらに意欲的な学生は「プログラム」を選択します¹。この特色である「クラスター制」と「プログラム」を説明します。

クラスター制

現代社会学部では、専門的な学習・研究を効果的に行うため、クラスター制を採用しています。幅広い現代社会についての学びの領域を大きく7つのクラスター（房）に分けています。現代社会学科の各クラスターには、ブドウの房のように、「科目」という「粒々」が含まれています。「人間・環境」「心理・文化」「家族・地域社会」「政治・公共政策」「経済・ビジネス」「情報」「国際社会」の7つのクラスターが提供されています。

卒業のためには、主クラスターから12単位、副クラスターから10単位以上を修得し、

¹ プログラム科目「短期英語研修」は1回生でも受講できます。

さらに7つのクラスター全体から4単位以上²、合計26単位以上を修得します。

4つのプログラム

現代社会学部では、さらに、より専門的で進んだ内容を学習するために、「社会調査」「ビジネス」「情報」「国際理解」の4つの「プログラム」を用意しています。後述するプログラムの指定にそって履修したのち、学部長に申請することによって、プログラム修了証を取得することができます。各プログラムについて詳しくは(17) 頁を見てください。

3 回生

クラスター科目、プログラム科目等の履修に加え、3 回生から始まる演習Ⅲ・Ⅳでは、いよいよ自分で絞り込んだテーマの学習・研究を本格的にスタートさせます。2 回生までにスキル科目、クラスター科目、プログラム科目を通して身につけた語学力や調査能力、知識や理論をさらに発展させ、またこれらを駆使して、現代社会の問題を深く追究することを目指します。

4 回生

これまでの3 年間で身につけた知識を体系化しつつ、課題とする問題を掘り当て、アプローチし、解決するための企画・立案する力を実践的に養います。演習Ⅴ・Ⅵで教員の指導を受けながら、大学生活の集大成として卒業論文作成に挑みます。

² 選択した主クラスター・副クラスターの科目でも、他のクラスターの科目でもどちらでもかまいません。

4. 履修計画の作り方

履修計画を立てる

- 自分の興味・関心、学びたい分野やテーマを考えてください。
- この『学習の手引』とシラバスを熟読し、自分の興味関心がどの「クラスター」と「専攻」に関連しているかを検討してください。
- 4年間のカリキュラムの中で、その関心が具体化できるようにおおまかな履修計画を立ててください。
- 現代社会学科で1年間に履修登録できる単位数の上限は、49単位です（履修要項第4条第4項（CAP）制）。なお卒業要件に含まれない科目等（諸課程履修科目等）はこの49単位の上限を超えて履修できます。
- 「授業科目開講一覧表（時間割）」に基づいて、1年間の受講時間割を作ってください。（前期か後期か、必修か選択か、先修科目（先に修得しておかないといけない科目）があるかどうかに注意してください。）
- 2回生以上は、不合格になった必修科目があれば、それを優先して履修するようにしてください。

履修登録

- 「開講一覧表（時間割）」に記載の曜日・講時、登録コード、担当教員を確認し、Webで履修登録します。特に登録コードの間違いがないように注意してください。
- 予備登録をおこなっていないとWeb登録ができない科目がありますので注意してください。

履修登録確認・修正

- 指定された期間に履修登録確認表をWebからダウンロードし、自分が登録した科目が正しく登録されていることを確認してください。自分が登録したものと異なる場合は、履修登録修正期間に修正してください。
- 履修登録修正期間以外は、履修登録を削除することはできません。
- 後期科目については、9月の履修登録修正期間にも修正できます。

GPAと登録取り消し

- 学生のわかりやすい成績評価として、履修登録したすべての科目の評価点の平均値（GPA）が算出されます。受講を途中で放棄した場合や登録ミスをしたままにしていた場合、その科目は不合格（0点）として平均値の計算に含まれます。受講しない科目は修正期間中に登録を取り消してください。

5. プログラム科目について

現代社会学部では、意欲的な学生がより専門的で進んだ内容を学習するために、「社会調査」「ビジネス」「情報」「国際理解」の4つの「プログラム」を用意しています。後述するプログラムの指定にそって学習を進め、単位や資格を取得することによって、プログラムの修了証を取得することができます。

以下で各プログラムとその修了に必要な要件を紹介します。

社会調査プログラム

1. 社会調査プログラムの目的

情報の氾濫する現代において多様かつ複雑な社会問題への対応を図るには、社会に関するデータを正しく収集し的確に読みこなす能力が求められます。現代社会学部では、スキル科目の「社会調査」で、データの収集・分析に関する基本的な考え方からアンケート調査・インタビュー調査など、各種社会調査の技法を学びます。アドバンス科目である社会調査プログラム科目（ソーシャル・リサーチ、フィールド・ワーク）では、社会調査を実践していくことで、現代のビジネス・パーソンに必要な素養である社会調査リテラシーを身につけていきます。

2. プログラムの概要と修了証授与要件

2-1. プログラムの概要

本プログラムでは、まず、スキル科目の「調査」群で各種社会調査法を座学で修めます。また、「社会学アプローチ」「経営学アプローチ」「統計学」という科目内容上関連深い科目を学習します。その後、プログラム科目の「ソーシャル・リサーチⅠ」に次いで「ソーシャル・リサーチⅡ」、あるいは「フィールド・ワークⅠ」に次いで「フィールド・ワークⅡ」を選択し、約1年間かけて調査の企画・設計から実施、分析、報告書の作成までを学生自身が主体的におこなうことで、より実践的な力を獲得することができます。

「社会調査プログラム」履修科目群

	スキル科目「調査」	プログラム科目	その他科目
第1セメスター			社会学アプローチ
第2セメスター	社会データ処理基礎		経営学アプローチ
第3セメスター	社会データ分析入門 社会調査法Ⅰ		＜推奨科目＞注4 地域連携講座A
第4セメスター	社会データ分析実践 社会調査法Ⅱ		地域連携講座B
第5セメスター	社会調査法Ⅲ	ソーシャル・リサーチⅠ注1～3 フィールド・ワークⅠ	統計学
第6セメスター		ソーシャル・リサーチⅡ フィールド・ワークⅡ	

注1：希望者は「ソーシャル・リサーチⅠ、Ⅱ」「フィールド・ワークⅠ、Ⅱ」を両方履修することも可能です。ただし、演習の特性上受講生数には上限があり、希望者多数の場合は調整を行うことがあります。
 注2：プログラム科目の履修には「社会データ処理基礎」の単位を修得しなければ履修できません。
 注3：地域連携講座A（2セメ）・地域連携講座B（3セメ）は全学共通の連携活動科目であり、社会調査プログラムでは履修を推奨しています。

2-2. 修了証授与要件

本プログラムでは、上記表のうちスキル科目「調査」群6科目、その他科目群3科目すべてと、プログラム科目の「ソーシャル・リサーチⅠ」「ソーシャル・リサーチⅡ」あるいは「フィールド・ワークⅠ」「フィールド・ワークⅡ」の単位を取得し、学部長に申請した者にディプロマを授与します。

3. 社会調査協会認定「社会調査士」資格との関わりについて

社会調査士とは、社会調査に関する基礎的な知識と技能、一定の応用力を身につけた「調査の専門家」として一般社団法人社会調査協会が認める資格です。本プログラムの修了証は学内限定の修了証であるのに対し、社会調査士は社会調査協会が発行するよりオフィシャルな資格という位置づけになります。社会調査に関する規定の単位を取得した後に社会調査協会に申請することで認定されます。社会調査士の資格取得に必要な単位については、『単位修得要領』『免許状取得要領（諸資格を含む）』の社会調査士の頁を確認してください。本プログラムの履修科目群は社会調査士に必要な単位をすべてカバーしています。

ビジネスプログラム

1. プログラムの目的

本プログラムは、現代のビジネス社会の第一線で活躍する女性を輩出すべく編まれたものです。グローバル化する現代社会に迅速に対応し、国内外の市場で付加価値があると認められるモノやサービスを、企業がどのように提供しているのか、またその事業がどのような仕組みで支えられているかについて、理解を深めます。特に、本プログラムのサービス経営特論では、現実に活躍されているビジネス・パーソンを招聘し、企業社会で働くことの意義と姿勢、現実の苦労や工夫について熱く語ってもらう予定です。

2. プログラムの概要

本プログラムの履修科目群は下記の通りです。

「ビジネスプログラム」履修科目群

	経済学分野	経営学分野
第1 Semester	経済学アプローチ	
第2 Semester		経営学アプローチ
第3 Semester	マクロ経済学 ミクロ経済学	経営戦略論 簿記Ⅰ
第4 Semester	金融論 財政学	組織マネジメント論 簿記Ⅱ
第5 Semester	国際経済学 家族経済論	マーケティング論 <u>簿記Ⅲ</u> 国際経営論 会計学
第6 Semester	現代世界経済論 社会保障制度論	<u>サービス経営特論</u> マーケティング分析

注：下線はプログラム固有科目

なお、全学共通科目「連携活動科目」として企業寄附講義が開講されます。「ビジネスプログラム」を履修するにあたって、関連科目として積極的に受講することを薦めます。

3. 修了証授与要件

本プログラムでは、下記に記した要件を満たし、学部長に申請した者に修了証を授与します。

修了証授与条件

必修科目	経済学アプローチ、経営学アプローチ 簿記Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、会計学、 経営戦略論、組織マネジメント論、サービス経営特論
選択必修科目 (A、B、Cについて、 それぞれの条件を満 たすこと)	A：マーケティング論、国際経営論、マーケティング分析か ら2科目4単位以上 B：金融論、国際経済学から1科目2単位以上 C：マクロ経済学、ミクロ経済学から1科目2単位以上
簿記能力	日本商工会議所主催・簿記検定試験2級
外国語運用力	TOEIC 600点以上

情報プログラム

プログラムの目的

現代社会では、あらゆる分野において ICT（情報通信技術）が活用されており、ICT に係る基礎的な知識やスキルが必要とされています。ICT 基盤の構築や維持管理に携わる人材に高度な情報工学教育が必要とされるのはもちろんですが、それを利用するユーザ側にも ICT に対する深い理解が求められます。本プログラムでは、情報学の基礎の上に理解されるプログラミングやネットワーキングの知識・スキルを学び実践していくことで、企業等における ICT 基盤の理解に必要な知識を学び、社会認識を深め、高度な IT スキルを身につけていきます。

プログラムの概要

本プログラムでは、情報スキル科目、情報クラスター科目で学んだ知識・スキルを土台として、さらに専門性を身につけるという構造になっています。表の「関連科目」は、情報プログラム科目を履修する前に修得することが望ましい科目を示したもので、先修科目を指定するものではありません。

情報プログラム履修科目群

プログラム科目	関連科目
応用プログラミングⅡ (第4セメスター)	プログラミング入門、応用プログラミングⅠ アルゴリズム論
ヒューマンコンピュータインタラクション (第4セメスター)	プログラミング入門
応用ネットワーク (第5セメスター)	コンピュータ・ネットワークⅠ コンピュータ・ネットワークⅡ 情報ネットワーク
プロジェクト管理 (第5セメスター)	プログラミング入門、応用プログラミングⅠ 応用プログラミングⅡ、アルゴリズム論
ネットワーク運用 (第6セメスター)	コンピュータ・ネットワークⅠ コンピュータ・ネットワークⅡ 情報ネットワーク、応用ネットワーク
情報技術者の社会的責任 (第6セメスター)	社会情報学、情報文明論、情報セキュリティ

修了証授与要件

本プログラムでは、情報プログラム科目から 3 科目 6 単位以上修得し、かつ下記の 3 つの資格のうちいずれか 1 つを取得し、学部長に申請した者に修了証を授与します。

- Ruby Association Certified Ruby Programmer Silver
プログラミング言語 Ruby でシステム開発を行う上で必要となる基礎的な知識とスキルを持つことが認定されます。
- Cisco Certified Network Associate (CCNA)
ネットワーク技術者に要求される標準的な知識とスキルを身につけていることを証明する資格です。
- .com Master ADVANCE
ICT に関する知識やスキルが個人や企業の ICT 活用をサポートできるレベルにあることを証明する資格です。

国際理解プログラム

1. プログラムの目的

グローバル化が進化する現代社会においては、国境を越えた幅広い視野と複眼的な思考力が求められています。このことは、現代社会学部で外国のことを勉強しようと思っている人にとってはもちろん、日本の社会についての勉強を目指す人にも当てはまることでしょう。外国を知ることによって、日本をより客観的に見つめる視点を得ることが期待されるからです。こうした観点から、現代社会学部は 2011 年度より「多文化理解実習」、2017 年度より「短期英語研修 A・B」という授業科目を設置し、国際研修を実施しています。

2. プログラムの概要

本プログラムでは、クラスター関連科目及びプログラム固有の授業を履修し、国際社会への理解を深めていきます。「短期英語研修 A・B」は英語力の強化をめざした海外の大学での研修プログラムです（「短期英語研修 B」は 2020 年度より不開講）。また「多文化理解実習」では、多様な歴史と文化を具えた人々が一つの社会を形成している現実
に直接接し、或いはそうした社会に進出した日本企業及び日本の方から直接お話を伺う
など、多様なメニューを提供します。

「国際理解プログラム」履修科目群

	プログラム・クラスター・スキル科目	他クラスター関連科目
第1 Semester		経済学アプローチ 法学アプローチ
第2 Semester	国際関係論アプローチ <u>短期英語研修 A</u> (短期英語研修 B)	政治学アプローチ 経営学アプローチ
第3 Semester	現代ヨーロッパ論 現代アフリカ論 現代アジア論 現代北米論 <u>多文化理解実習</u> <u>Japan Studies 1</u>	マクロ経済学 経営戦略論
第4 Semester	国際関係論 <u>国際協力論</u> 現代イスラーム地域論 国際法 現代ラテンアメリカ論 専門中国語 I <u>Japan Studies 2</u> 専門韓国語 I <u>Study Abroad A I ~IV</u> <u>Study Abroad B I</u>	比較政治論 国際結婚論

第5セメスター	国際関係史	専門英語Ⅲ	国際経営論	マーケティング論
	国際経済学	専門中国語Ⅱ		
	国際観光論	専門コリア語Ⅱ		
	<u>Study Abroad AⅤ～Ⅷ</u>	<u>Study Abroad BⅡ</u>		
第6セメスター	多文化社会論	専門英語Ⅳ		
	現代世界経済論			

注1：下線はプログラム固有科目（「短期英語研修B」は不開講）

注2：「Study Abroad AⅠ」～「Study Abroad AⅧ」、「Study Abroad BⅠ」及び「Study Abroad BⅡ」は半期・通年の留学の読み替え科目。

3. 修了証授与要件

本プログラムでは、下記に記した要件を満たし、学部長に申請した者に対して修了証を授与します。

修了証授与条件

必修科目	国際関係論アプローチ、政治学アプローチ 経済学アプローチの全ての科目
選択科目	現代ヨーロッパ論、現代アジア論、現代アフリカ論、現代北米論から2科目以上
	短期英語研修A、短期英語研修B、多文化理解実習、Study Abroad AⅠ・AⅤ・BⅠ・BⅡから1科目以上
	専門英語Ⅲ及びⅣ、もしくは専門中国語Ⅰ及びⅡ、もしくは専門コリア語Ⅰ及びⅡ
	法学アプローチ、国際法、国際関係論、比較政治論、国際関係史、国際協力論、現代イスラーム地域論、現代ラテンアメリカ論、Japan Studies1・2から3科目以上
	経営学アプローチ、マクロ経済学、経営戦略論、国際結婚論、国際経済学、マーケティング論、国際経営論、現代世界経済論、国際観光論、多文化社会論から3科目以上
外国語運用力 (いずれか一つで可)	TOEIC IP 700点以上、TOEFL ITP 500以上、TOEFL iBT 61以上、IELTS 5.5以上
	ドイツ語検定試験3級以上
	フランス語教育振興協会検定試験(仏検)準2級以上
	日本中国語検定協会中国語検定試験3級以上
	ハングル能力検定協会ハングル能力検定試験3級以上

4. 短期英語研修 A

現代社会学部では、英語力の強化を目的として、春季休暇中にビクトリア大学（カナダ）The English Language Centre において約 4 週間の英語研修を実施しています。

この英語研修に参加し、研修先の大学から修了認定を受けることで、現代社会学部現代社会学科の専門科目「短期英語研修 A」4 単位（ビクトリア大学）を修得することができます。「短期英語研修 A」は 1 回生から履修できますが、研修実施期間により 4 回生での履修は制限される場合があります。

「短期英語研修 A」の詳細については、別途説明会を開催して説明します。

5. 多文化理解実習

現代社会学部では、「貧困、開発、人権、エスニシティ」を共通のテーマに掲げ、現地でのフィールド・ワークを中心とした海外研修を実施しています。この海外研修に参加し、その他必要な要件を満たせば、現代社会学科専門科目「多文化理解実習」2 単位を修得することができます。2020 年度の研修先（予定）は、次の通りです。

- ・カナダ研修－多文化社会カナダと国際機関
- ・台湾研修－グローバリゼーションと多文化社会

海外での研修は、夏季休暇中もしくは春季休暇中に実施されます。期間は研修先によって異なりますが、いずれの研修も1週間前後から10日程度を予定しています。研修先ごとに最少催行人数と最多受入人数が設けられています。参加希望者の人数が、最少催行人数を下回った場合には、研修は中止となります。最多受入人数を超えた場合には、参加者の選抜を行います。

「多文化理解実習」の単位を修得するには、研修への参加に加えて、事前および事後の指導を受け、研修参加後にはレポートを提出し、報告会に参加することが必要です。

「多文化理解実習」は 2 回生から履修できますが、研修実施期間により 4 回生での履修は制限される場合があります。

もちろん、「多文化理解実習」だけを履修することもできますが、上記「国際理解プログラム」履修科目群をできるだけ多く履修し、また英語等外国語科目を履修して外国語運用能力を高めておくことは、現地研修をより実り豊かなものにすることでしょう。

尚、いずれの研修においても現代社会学部の専任教員が同行します。研修費用（海外旅行保険料、現地での交通費や生活費などを含む）は参加者の自己負担となります。

「多文化理解実習」の詳細については、別途説明会を開催して説明します、説明会は研修を実施する前年度末に、報告会とあわせて開く予定です。履修登録は研修を実施する年度の 4 月に行います。

6. 現代社会学科留学プログラム

外国語運用能力と外国語による社会科学分野での専門性の向上、および異文化理解の促進を図るため、現代社会学科独自のプログラムとして、2 回生後期から 4 回生前期までの期間における、半年または通年の留学制度を設けています（選択制）。

この現代社会学科留学プログラム（以下、「留学プログラム」）は、①～③の条件をクリアした学生が参加できます。

- ① アプローチ科目の「国際関係論アプローチ」の単位を修得していること。
- ② 留学先となる協定大学が定める基準（語学運用能力等）を満たしていること。
- ③ 学科内に設けられた委員会の選考により許可されていること。

留学先の協定大学で修得した単位は一定の条件の下で本学の卒業に必要な単位として認定されるため、留学しても、皆さんの努力次第では 4 年間で卒業できるようになっています（ただし、4 年間での卒業を保証するものではありません）。

留学プログラムの概要や単位認定の対象科目については、次ページからの「京都女子大学現代社会学部現代社会学科留学プログラムに関する取扱い要項」を見てください。なお、留学プログラムの詳細については、別途説明会を開催して説明します。

京都女子大学現代社会学部現代社会学科留学プログラムに関する取扱い要項

制定 平成29年4月1日

最近改正 平成29年10月1日

(目的)

第1条 京都女子大学外国留学規程（以下「外国留学規程」という。）第3条の規定に基づき、京都女子大学現代社会学部現代社会学科が実施する留学プログラム（以下「現代社会学科留学プログラム」という。）による協定大学留学の取扱いを定める。

(資格)

第2条 現代社会学科留学プログラムに参加するためには、次の各号の要件を満たしていなければならない。

- (1) 「国際関係論アプローチ」の単位を修得済みであること。
- (2) 協定大学の要求する語学運用能力の基準を満たしていること。

(留学期間及び学籍上の取扱い)

第3条 現代社会学科留学プログラムによる留学は、別表1の通り、2回生後期以降に半年間または1年間で実施する。

- 2 留学の開始並びに終了の時期は、協定大学が定める期間とする。
- 3 現代社会学科留学プログラムへの参加を希望する者は、協定大学が定める留学期間を確認のうえ、半年間または1年間の留学を選択して出願しなければならない。
- 4 留学期間中の学籍上の取扱いは、外国留学規程に規定する「留学」として、卒業に必要な在学年数及び修学期間に算入する。

(出願及び許可)

第4条 現代社会学科留学プログラムへの参加を希望する者は、別に定める期日までに、所定の留学申込書に次の書類を添えて、教務部国際交流課（以下「国際交流課」という。）に提出しなければならない。

- (1) 保証人の同意書
- (2) 誓約書
- (3) 語学運用能力を証明する書類
- (4) その他本学が必要と認めた書類

2 前項による出願があった学生については、現代社会学科内に設ける留学に関する委員会が、別に定める人数の枠内において選考を行い、現代社会学科の推薦に基づき、現代社会学部教授会の議を経て、学長がこれを許可する。

(開始届の提出)

第5条 留学を許可された者は、本学所定の「留学開始届」を速やかに国際交流課に提出するものとする。

(報告書の提出)

第6条 留学を終えた者は、帰国後速やかに本学所定の「留学報告書」を国際交流課に提出するものとする。

(単位の認定)

第7条 現代社会学科留学プログラムによる留学を修了した者には、留学期間中に履修した科目の学修時間及び成績評価に応じて、別表2に定める範囲で現代社会学科専門科目の単位を認定する。

2 前項の規定にかかわらず、学習状況とシラバス等を確認の上、別表2に定める科目以外の専門科目の単位を認定することができる。

(帰国後の単位登録)

第8条 留学先大学と本学との学年暦の違いにより、留学生が本学の単位登録期日までに帰国できない場合は、学部長の判断により一定期間に限り単位登録を猶予することができるものとする。

2 留学期間が4回生前期まで及ぶ者については、「演習Ⅴ」の単位を認定された場合に限り、学部長の判断により4回生後期に卒業論文の登録を認めることとする。

3 現代社会学科留学プログラムによる留学を修了した者は、演習等で留学の成果を発表しなければならない。

(留学中の学費)

第9条 留学中の本学学費等納付金は、全額納入するものとする。

2 留学先大学の学費は、自己負担とする。

(事務の所管)

第10条 現代社会学科留学プログラムは、現代社会学科内に設ける留学に関する委員会が実施にかかる事務を推進し、国際交流課がサポートを行う。

(要項の改廃)

第11条 この要項の改廃は、大学部局長会に諮り、評議会の議を経て、学長がこれを行う。

附 則

この要項は、平成29年4月1日から施行し、平成29年度現代社会学科入学生から適用する。

附 則

この要項は、平成29年10月1日から施行する。

別表 1

留学期間	派遣時期
半年間	2回生後期、3回生前期、3回生後期、4回生前期
1年 間	2回生後期～3回生前期、3回生前期～3回生後期、3回生後期～4回生前期

別表 2

科 目 区 分	科 目 名	単位数	必選の別
演習科目(*1)	演習Ⅱ	2	必
	演習Ⅲ	2	必
	演習Ⅳ	2	必
	演習Ⅴ	2	必
Study Abroad科目	Study Abroad AⅠ	4	選
	Study Abroad AⅡ	4	選
	Study Abroad AⅢ	4	選
	Study Abroad AⅣ	4	選
	Study Abroad AⅤ	4	選
	Study Abroad AⅥ	4	選
	Study Abroad AⅦ	4	選
	Study Abroad AⅧ	4	選
	Study Abroad BⅠ	2	選
	Study Abroad BⅡ	2	選

(*1)演習科目については、留学中にも演習担当教員の指導を受けることを前提として、演習担当教員の評価に基づき単位認定を行う(評価はN)。

6. 現代社会学部カリキュラム全体の概要

現代社会学部のカリキュラム全体は、共通領域と専門領域、自由・発展領域に分けられます。卒業のために条件にしたがって132単位以上修得します。

1. 共通領域

(1) 仏教学

本学の建学の精神に基づく人間教育の基本となる科目です。全学必修で1回生と3回生時に履修します。2回生時以降に履修できるアドバンスト科目では、仏教学をより深く専門的に学習します。

(2) 言語コミュニケーション科目

必修の英語と、各自の選択による必修の初修外国語（ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語）の2ヶ国語を学びます。2回生時以降も4回生まで高度な外国語能力を養うための科目が選択できます。

(3) 京女の教養学

広く教養を身につけることを目標としつつ、専門の枠を超えて共通に求められる知識や思考法などの知的技法の獲得や、人間としてのあり方や生き方に関する深い洞察力和現実を正しく理解する力の涵養を目指します。

(4) 情報コミュニケーション科目

情報系の全学共通科目です。1回生開講の情報リテラシー基礎（必修）と選択の情報リテラシー応用、2回生時以降にアドバンスト科目「情報コミュニケーション科目A～K」があります。

(5) 健康科学科目

講義「運動と健康科学」（必修）と実技「スポーツ実践」を通して、生涯にわたる健康づくりの基礎を学習します。

(6) キャリア教育科目

キャリア教育は、学生一人ひとりの精神的発達、個人としての自立を促す教育です。

2. 専門領域

(1) 導入科目

現代社会を学ぶうえで必要な基礎力を身につけます。

(2) アプローチ科目

現代社会の諸問題を考察し分析するための基本的な手法(アプローチ)を学習します。

(3) スキル科目

a. 外国語科目

知識を得る道具としての英語の修得を目指して、各専門分野の教科書・研究書を読む訓練をします。

b. 情報科目

コンピュータおよびネットワークに関するより深い知識と技術を身につける科目です。

c. 調査科目

正しくデータを収集し分析するための「社会調査」の技法を体系的に学ぶ科目です。

(4) クラスタ科目

現代社会学部の中心的な専門科目は、クラスター(房)にまとめられています。「人間・環境」「心理・文化」「家族・地域社会」「政治・公共政策」「経済・ビジネス」「情報」「国際社会」の7つのクラスターが提供されています。

(5) プログラム科目

実社会で活かせる発展的なスキルの育成をめざし、所属する専攻にかかわらず自由に選択できる4つのプログラムが設けられています。各プログラムの所定要件を満たした上で申請をすればプログラム修了証が授与されます。修了証の取得を目指さずに履修することも可能です。詳細は(15) 頁を見てください。

(6) 特別講義科目

その時々により重要と考えられるテーマを取り上げる特別な科目です。この科目の講義内容は原則として毎年変わります。

(7) 演習科目

少人数のゼミ形式の科目です。1 回生では、資料収集、文献の読解、ディスカッション、レポート・論文の書き方などの基礎的なアカデミック・スキルを修得します。2 回生では、アカデミック・スキルを高めると共に、関心のある専門領域を学びます。3・4

回生は原則として同じ教員のもとで学び、その研究成果を卒業論文としてまとめます。

(8) 卒業論文

4年間の大学生活の集大成として卒業論文を作成します。

(9) 教職・教科関連科目

この科目は、中学校教諭一種免許（社会）の取得を希望する学生のための科目の一部ですが、歴史や地理の学習は、現代社会の問題を扱うためにも必要な知識です。免許の取得とかかわりなく履修することができます。

3. 自由・発展領域

(1) 他大学単位修得科目

以下のように、他大学単位修得科目の単位は卒業要件単位として 60 単位まで認定されます。

- ・京都の大学のほとんどが加入している「大学コンソーシアム京都」の単位互換制度を利用して、他大学で開講されている科目を履修することができます。

- ・京都女子大学に入学する以前に在籍していた他の大学等で修得した単位の一部が 30 単位を上限として本学の単位として認定される場合があります。詳しくは教務課にたずねてください。

(2) 語学研修科目

京都女子大学には、国内での語学研修と、外国の大学と提携して行う海外での語学研修科目があります。この語学研修に参加し、単位が認定された場合は、8 単位までを卒業に必要な単位に含めることができます。

(3) 連携活動科目

修得単位は自己選択における単位として、卒業に必要な 132 単位に含めることができます。

7. 回生別開講科目一覧表

領域	科目区分		卒業 必修単位	1回生				2回生				3回生				4回生									
				第1セメスター	単位	第2セメスター	単位	第3セメスター	単位	第4セメスター	単位	第5セメスター	単位	第6セメスター	単位	第7セメスター	単位	第8セメスター	単位						
共通領域	仏教学 (8単位必修)		必修単位の20単位を含め 合計26単位	仏教学ⅠA	2	仏教学ⅠB	2					仏教学ⅡA	2	仏教学ⅡB	2										
								「仏教学アドバンスト科目」を自由に選択履修																	
	言語コミュニケーション科目	【英語】 (4単位必修)		英語ⅠA1	1	英語ⅠB1	1					「英語アドバンスト科目」を自由に選択履修													
		【初修外国語】 (4単位必修)		英語ⅠA2	1	英語ⅠB2	1																		
				●●語ⅠA1	1	●●語ⅠB1	1					「初修外国語アドバンスト科目」を自由に選択履修 ※一部科目に履修条件有り。科目表の備考欄を確認すること。													
				●●語ⅠA2	1	●●語ⅠB2	1																		
	情報コミュニケーション科目 (2単位必修)			情報リテラシー基礎	2	「情報リテラシー応用」を自由に選択履修／「情報リテラシー基礎」修得後、「情報コミュニケーションA～H」を自由に選択履修																			
	健康科学科目 (2単位必修)			運動と健康科学＊	2																				
								「スポーツ実践」を自由に選択履修																	
	京女の教養学							「教養科目A」「教養科目B」「教養科目C」を自由に選択履修																	
	キャリア形成科目							「キャリア開発Ⅰ」「キャリア開発Ⅱ」「職業体験実習」を自由に選択履修																	
	連携活動科目							「連携活動入門」「地域連携講座A1～B2」「産学連携講座A1～B3」「連携課題研究」を自由に選択履修 ※一部科目に履修条件有り。科目表の備考欄を確認すること。																	
	学科・専攻開放科目							「学科・専攻開放科目」を自由に選択履修																	
	他大学単位修得科目							「大学コンソーシアム京都単位互換科目」を自由に選択履修																	

*・・・後期に開講される場合があります。
青字の科目は国際社会専攻の必修科目。緑字は情報システム専攻の必修科目。
赤字の科目は卒業必修科目。

領域		科目区分		卒業 必修単位	1回生				2回生				3回生				4回生			
					第1セメスター	単位	第2セメスター	単位	第3セメスター	単位	第4セメスター	単位	第5セメスター	単位	第6セメスター	単位	第7セメスター	単位	第8セメスター	単位
専 門 領 域	必修科目	必修科目		26単位	現代社会入門Ⅰ	2	ジェンダーと現代社会	2	演習Ⅰ	2	演習Ⅱ	2	演習Ⅲ	2	演習Ⅳ	2	演習Ⅴ	2	演習Ⅵ	2
					現代社会入門Ⅱ	2	基礎演習Ⅱ	2	卒業論文(4単位)											
	スキル科目	外国語科目	10単位以上	数学入門	2	基礎数学Ⅰ	2	基礎数学Ⅱ	2	数理モデル	2	統計学	2							
		情報科目		プログラミング入門	2	応用プログラミングⅠ	2	コンピュータ・ネットワークⅡ	2											
		調査科目			社会データ処理基礎	2	社会データ分析入門	2	社会データ分析実践	2	社会調査法Ⅲ	2								
	アプローチ科目		10単位以上	哲学アプローチ	2	政治学アプローチ	2													
		社会学アプローチ	2	心理学アプローチ	2															
		経済学アプローチ	2	経営学アプローチ	2															
		法学アプローチ	2	環境学アプローチ	2															
		情報学アプローチ	2	国際関係論アプローチ	2															
	選択科目	人間・環境	各専攻とも以下の条件のもと 合計26単位以上 主選択のクラスターより12単位以上 副選択のクラスターより10単位以上 7クラスターのいずれかより4単位以上				倫理学	2	生命倫理学	2	現代人権論	2	応用倫理学	2						
						人間学	2	生命の起源と進化	2	多様性の生物学	2	エネルギーと環境	2							
						自然環境と生態系	2	環境政策論	2	環境開発論	2	環境社会学	2							
		心理・文化					臨床心理学	2	社会心理学	2	精神医学概論	2	人間関係の心理学	2						
						文化人類学	2	文化社会学	2	メディア文化論	2	比較文化精神医学	2							
						社会学概論	2	ニューロサイエンス概論	2	労働の社会学	2	現代宗教論	2							
		家族・地域社会		＜主選択のクラスター＞ 【現代社会専攻】 「人間・環境」 「心理・文化」 「家族・地域社会」 「政治・公共政策」 「経済・ビジネス」 5クラスターから1つ選択			家族社会学	2	家族法	2	比較家族史	2	家族の人類学	2						
						福祉と家族	2	民俗文化論	2	ジェンダーと法	2	ジェンダーの社会学	2							
						地域社会学	2	国際結婚論	2	家族経済論	2									
						市民活動論	2													
政治・公共政策				政治過程論	2	行政学	2	行政法	2	都市政策論	2									
				マイノリティと法	2	法社会学	2	社会福祉論	2	労働法	2									
				日本国憲法	2	民法	2	地方自治論	2	社会保障制度論	2									
					2	比較政治論	2													
経済・ビジネス					マクロ経済学	2	金融論	2	国際経営論	2	日本経済史	2								
					ミクロ経済学	2	財政学	2	マーケティング論	2	教育経済学	2								
					経営戦略論	2	組織マネジメント論	2	会計学	2	マーケティング分析	2								
					簿記Ⅰ	2	簿記Ⅱ	2												
情報					アルゴリズム論	2	情報ネットワーク	2	情報理論	2	応用データベース	2								
					情報数学	2	情報文明論	2	情報セキュリティ	2	知能情報学	2								
					社会情報学	2	ロボット社会論	2	データベース	2	Webシステムデザイン	2								
国際社会																				
					現代ヨーロッパ論	2	国際関係論	2	国際関係史	2	多文化社会論	2								
					現代アジア論	2	現代イスラーム地域論	2	国際経済学	2	現代世界経済論	2								
					現代アフリカ論	2	現代ラテンアメリカ論	2	国際観光論	2										
					現代北米論	2	国際法	2												
プログラム科目	社会調査									ソーシャル・リサーチⅠ	2	ソーシャル・リサーチⅡ	2							
	ビジネス									フィールド・ワークⅠ	2	フィールド・ワークⅡ	2							
	情報									簿記Ⅲ	2	サービス経営特論	2							
	国際理解									応用プログラミングⅡ	2	ネットワーク運用	2							
										ヒューマンコンピュータインタラクション	2	プロジェクト管理	2	情報技術者の社会的責任	2					
										多文化理解実習(2単位)				Study Abroad AⅤ	4					
										Japan Studies Ⅰ	2	Study Abroad AⅥ	4							
										Japan Studies 2	2	Study Abroad AⅦ	4							
										Study Abroad AⅠ	4	Study Abroad AⅧ	4							
								Study Abroad AⅡ	4	Study Abroad BⅡ	2									
								Study Abroad AⅢ	4											
								Study Abroad AⅣ	4											
								Study Abroad BⅠ	2											
特別講義科目						特講A	2	特講B	2	特講C	2	特講D	2							
教職・教科関連科目						日本史概論＊	2	歴史地理学概論＊	2	情報科教育法2	2	地誌学概論＊	2							
						東洋史概論＊	2	人文地理学概論＊	2			自然地理学概論＊	2							
						西洋史概論＊	2	社会科教育法(地理歴史分野)＊	2			地理歴史科教育法＊	2							
								社会科教育法(公民分野)＊	2			公民科教育法＊	2							
								情報科教育法1	2											

*・・・後期に開講される場合があります。

青字の科目は国際社会専攻の必修科目。緑字は情報システム専攻の必修科目。

赤字の科目は卒業必修科目。

8. 履修条件のある科目

1. クラス指定・選択のある科目

授業効果への配慮や、教室や機材の制約などから定員が定められたり、担当者によって授業内容が異なっていたりするため、クラス分けのある科目があります。これには、(1)学生証番号によりクラスが指定されている科目、(2)希望調査等に基づきクラスが指定される科目、(3)自分で受講クラスを選択する科目、があります。

(1) 学生証番号によりクラスが指定されている科目

以下の表の科目は学生証番号により受講するクラスが指定されています。必ず指定されたクラスで受講してください。なお、下線で示した科目は必修科目です。それ以外は選択科目です。

学年	科目名
1 回生	<u>仏教学ⅠA・ⅠB</u> 、 <u>運動と健康科学</u> 、 <u>情報リテラシー基礎</u> 、 <u>キャリア開発Ⅰ</u> 、 <u>現代社会入門Ⅰ・Ⅱ</u> 、 <u>ジェンダーと現代社会</u> 、 <u>社会データ処理基礎</u> 、 <u>基礎演習Ⅰ</u> 、経営学アプローチ、心理学アプローチ、数学入門、基礎数学Ⅰ
2 回生	基礎数学Ⅱ、簿記Ⅰ・Ⅱ
3 回生	<u>仏教学ⅡA・ⅡB</u>

注1：英語ⅠA 1・ⅠA 2・ⅠB 1・ⅠB 2（1回生必修）は入学後受験する「英語プレースメントテスト」の結果によってクラス分けされます。

注2：スポーツ実践は初回授業でクラス分けが行われます。

(2) 希望調査等に基づきクラスが指定される科目

(34) ページの開講科目一覧表の「専門領域」の科目のうち、次頁の表の科目は希望調査等に基づいて受講クラスを決定します。希望人数などにより調整を行う場合がありますので注意してください。希望調査は主に Web サイト上で行います、サイトのアドレス等は掲示板で確認してください。下記の表以外の科目でも希望調査を行うことがあるので掲示に注意してください。

なお、(33) ページの開講科目一覧表の「共通領域」の科目についても希望調査に基づいたクラス分けが行われる場合があります。成績表配布時に配られる資料や教務課および学部の掲示板などで各自確認してください。

学年	科目名
1 回生	基礎演習Ⅱ プログラミング入門
2 回生	演習Ⅰ・Ⅱ 専門英語Ⅰ・Ⅱ 社会データ分析入門・社会データ分析実践
3 回生	演習Ⅲ・Ⅳ（演習Ⅲ・Ⅳは原則として同一クラス） ソーシャル・リサーチⅠ・Ⅱ フィールド・ワークⅠ・Ⅱ
4 回生	演習Ⅴ・Ⅵ（演習Ⅴ・Ⅵは原則として同一クラス）

(3) 自分で受講クラスを選択する科目

上記以外の科目で、複数開講があるものはシラバスをよく読み、曜日・講時・授業内容など、自分に合ったクラスを選択してください。

2. 先修条件のある科目

履修する際に、指定された科目の単位をあらかじめ修得しておかなければならない科目があります。履修計画を立てる際に十分注意してください。

(1) 社会データ分析実践

社会データ分析入門の単位を修得しなければ履修できません。

(2) ソーシャル・リサーチⅠおよびフィールド・ワークⅠ

社会データ処理基礎の単位を修得しなければ履修できません。

(3) ソーシャル・リサーチⅡおよびフィールド・ワークⅡ

ソーシャル・リサーチⅡはソーシャル・リサーチⅠ、フィールド・ワークⅡはフィールド・ワークⅠの単位を修得しなければ履修できません。

(4) 簿記Ⅲ

簿記Ⅰおよび簿記Ⅱの2科目4単位を修得しなければ履修できません。

(5) サービス経営特論

経営戦略論、組織マネジメント論およびマーケティング論の3科目6単位を修得しなければ履修できません。

(6) Study Abroad AⅠ～Ⅷ、Study Abroad BⅠ～Ⅱ（半期・通年留学の読み替え科目）
の履修のためには、国際関係論アプローチの単位をあらかじめ修得していなければなりません。

- (7) 専門中国語Ⅰおよび専門中国語Ⅱ
中国語ⅠA1・ⅠA2・ⅠB1・ⅠB2・ⅡA1の5科目5単位、および中国語ⅡA2もしくはⅡA3のいずれか1科目1単位、合計6科目6単位を修得しなければ履修できない。
- (8) 専門コリア語Ⅰおよび専門コリア語Ⅱ
コリア語ⅠA1・ⅠA2・ⅠB1・ⅠB2・ⅡA1の5科目5単位、およびコリア語ⅡA2もしくはⅡA3のいずれか1科目1単位、合計6科目6単位を修得しなければ履修できない。
- (9) 演習Ⅴ・Ⅵおよび卒業論文
基礎演習Ⅰ・Ⅱ、演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳの6科目12単位中、4科目8単位以上を修得しなければ履修できません。
- (10) 卒業論文の単位は、原則として最終学年の者で3ヵ年以上在学し、当該年度に卒業が見込まれる者が登録できます。卒業論文は4年間の学習と研究の集大成です。1月15日午後5時までに教務課に提出します³。卒業論文には、指導教員の署名捺印を得た「卒業論文題目」用紙を添えて提出しなければなりません。「卒業論文題目」用紙が添えられていない卒業論文、指導教員の署名捺印のない「卒業論文題目」用紙は無効ですので注意してください。

³ 15日が日曜日にあたる場合には、その翌日が締切日となります。

9. 履修相談について

毎年4月、教務課のカウンター前は、質問者で長蛇の列になります。教務課に質問に行く前にこのページを見て下さい。現代社会学科で決めていることは、教務課に質問に行ってもわかりません。現代社会学科では1回生から演習科目を履修します。困ったことがあれば、まず演習の担当教員に相談しましょう。もちろんクラス担任であるアドバイザーの先生も相談に乗ります。教務課でしかわからないことを、教務課のカウンターで相談しましょう。

☆現代社会学科の学科教務委員会、各科目の担当教員に尋ねること

- ・学科で行うクラス分け((34) ページを見て下さい)
- ・2回生以上のクラスター登録について
- ・講義の内容

☆教務課に相談すること

- ・Web 履修登録の方法・期間など(年度初めに配布される『履修の手引き』をよく読むこと)
 - ・教職、資格免許関係について(新入生オリエンテーションの日に説明があります)
 - ・(33) ページの開講科目一覧表の現代社会学科専門科目以外の講義科目
- *留学については、国際交流課に相談に行きましょう。

ゼミ(演習)担当の専任教員

アドバイザーと連携して、様々な指導・助言を行います。基礎演習・演習を担当している教員が、みなさんにとってもっとも身近な相談相手になるでしょう。オフィスアワーを活用するなどして、遠慮なく相談してください。連絡の仕方などは、(39) ページからの「教員の研究室とメッセージ」を参照してください。

アドバイザー

本学では学生生活全般について相談できるように、みなさんには4年間学生生活を通じて継続する「アドバイザー」がついています。アドバイザーは次のようなことを担当します。

- (1) 学生生活全般にわたる指導・助言
- (2) 学生の身の上に関する事項の確認と学生生活センターへの連絡・協議
- (3) 就学上の相談と指導・助言
- (4) 公欠許可証の受け取り

教職支援センター（L 校舎 3 階）

小学校・中学校・高等学校の教員を目指す学生が教員採用選考試験に合格できるよう、教員として必要な力をつけて教壇に立てるよう、さまざまな支援行事を企画・開催しています。また、教職支援センターには、教員経験のある教職カウンセラーが常駐し、みなさんの相談や指導に応じる体制をとっていますので、積極的に利用してください。なお、行事等の案内は、学内掲示板およびポータルサイトでお知らせしています。

キャリアセンター（L 校舎 3 階）

キャリアデザインの目標は、「生涯自分らしく、充実した日を送れるように、仕事を通して人生の筋道を立てること」。そのためには、社会を知り、自分を知ったうえで、主体的に判断・行動できる力（社会人基礎力）が必要です。

キャリアセンターでは、それぞれの「キャリアデザイン」を応援するため、キャリアカウンセラーによる個別相談や、インターンシップ制度、資格取得講座などのキャリア支援プログラムを実施し、必要な能力の獲得やスキルアップができるよう、さまざまなサポートを行っています。

1 回生から利用できますので、みなさんの積極的な利用をお待ちしています。

教員の研究室とメッセージ

現代社会専攻教員

江口 聡 (S302) . . . (41)	諏訪 亜紀 (S410) . . . (44)
奥井亜紗子 (S405) . . . (41)	中田 兼介 (S305) . . . (44)
掛谷 純子 (S409) . . . (41)	中道 仁美 (S317) . . . (45)
金子 充 (S203) . . . (42)	西尾久美子 . . . (45)
嘉本伊都子 (S403) . . . (42)	濱崎由紀子 (S406) . . . (46)
工藤 正子 (S205) . . . (43)	藤井 隆道 (S413) . . . (46)
坂爪 聡子 (S404) . . . (43)	正木 大貴 (S303) . . . (46)
澤 敬子 (S414) . . . (43)	森久 聡 (S304) . . . (47)
霜田 求 (S412) . . . (44)	亘 明志 (S411) . . . (47)

国際社会専攻教員

城戸 英樹 (S316) . . . (47)	松田 哲 (S311) . . . (49)
戸田真紀子 (S401) . . . (48)	松本 充豊 (S402) . . . (49)
鳥谷 一生 (S315) . . . (48)	ジャスティン・アウケマ (S312) . . . (50)
林 忠行 (S301) . . . (48)	クリス・ポープ (S310) . . . (50)

情報システム専攻教員

中山 貴夫 (S202) . . . (50)	道越 秀吾 (S204) . . . (51)
丸野 由希 (S408) . . . (51)	宮下 健輔 (S201) . . . (51)

えぐちさとし

江口 聡

研究室8 (S302)

☆主な担当科目：

倫理学、応用倫理学

☆専門領域：

哲学、倫理学

☆オフィスアワーとメールアドレス：eguchi@kyoto-wu.ac.jp

火曜日2限と昼休み、それ以外の場合はメールでアポイントをとってください。

おくいあさこ

奥井亜紗子

研究室25 (S405)

☆主な担当科目：

家族社会学、フィールド・ワークⅠ・Ⅱ、社会データ処理基礎、社会データ分析入門

☆専門領域：

家族社会学、農村社会学、地域社会学

☆オフィスアワーとメールアドレス：okuia@kyoto-wu.ac.jp

オフィスアワーは木曜日4講時。事前のメール予約を原則とします。

かけやじゅんこ

掛谷 純子

研究室29 (S409)

☆主な担当科目：

経営学アプローチ、簿記Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

☆専門領域：

会計学（財務会計、管理会計）

☆オフィスアワーとメールアドレス：akeya@kyoto-wu.ac.jp

火曜日と水曜日の昼休み、事前にアポイントメントがあれば確実に対応できます。

かねこみつる

金子 充

研究室 3 (S203)

☆主な担当科目：

マーケティング論

☆専門領域：

マーケティング論（消費者行動論、マーケティング・リサーチ）

☆オフィスアワーとメールアドレス：kanekom@kyoto-wu.ac.jp

木曜日の昼休み、アポイントメントのある方を優先しますので、メールで事前に予約を取っておくとより確実です。

かもといっこ

嘉本伊都子

研究室23 (S403)

☆主な担当科目：

国際結婚論、比較家族史、ソーシャル・リサーチ I & II（半構造化インタビュー調査）

☆専門領域：

歴史社会学

☆オフィスアワーとメールアドレス：kamoto@kyoto-wu.ac.jp

前期後期ともに講義期間中は木曜 5 限。

メールでアポイントをとった学生を優先します。携帯メールからの場合、件名に名前を記入してください。件名なしの場合、迷惑メールとみなし、開くことなくゴミ箱に行くこととなります。木曜 5 限に来られない場合、あるいは、講義期間以外に質問がある場合は、都合のいい日時を3つあげて下さい。同じ日の違う時間帯3つあげても、その日大学に来られない場合もあるので、分散すること。ちなみに、土日のメール、今日会って下さい、明日会って下さいという自分勝手に、相手の都合も考えない、社会人としては通用しないであろう学生の希望は、通りません。

くどう まさこ

工藤正子

研究室5 (S205)

☆主な担当科目：

ジェンダーと現代社会、文化人類学、多文化社会論、ソーシャル・リサーチⅠ・Ⅱ

☆専門領域：

文化人類学（ジェンダー、グローバル化、多文化社会、イスラーム）

☆オフィスアワーとメールアドレス：kudom@kyoto-wu.ac.jp

水曜日のオフィスアワー以外は、アポイントメントをとってください。

さかづめ さとこ

坂爪聡子

研究室24 (S404)

☆主な担当科目：

家族経済論、教育経済学

☆専門領域：

人口経済学

☆オフィスアワーとメールアドレス：sakadume@kyoto-wu.ac.jp

水曜日の12：10～12：50

さわ けいこ

澤敬子

研究室34 (S414)

☆主な担当科目：

法学アプローチ、マイノリティと法、法社会学、ジェンダーと法

☆専門領域：

法社会学（マイノリティと法、ジェンダーと法、司法教育、法過程、法曹論）

☆オフィスアワーとメールアドレス：sawa@kyoto-wu.ac.jp

メールで予約してから水曜日昼休みに研究室に来てください。

しもだもとむ

霜田 求

研究室32 (S412)

☆主な担当科目：

生命倫理学、現代人権論

☆専門領域：

生命倫理学、環境倫理学、社会哲学

☆オフィスアワーとメールアドレス：shimoda@kyoto-wu.ac.jp

月・火・水の12:10～12:40

事前にメール連絡をお願いします。

すわあき

諏訪亜紀

研究室30 (S410)

☆主な担当科目：

環境開発論、環境政策論

☆専門領域：

環境政策 再生可能エネルギー政策

☆オフィスアワーとメールアドレス：suwa@kyoto-wu.ac.jp

オフィスアワー（水曜日12:10 - 12:50）に直接研究室を訪問してください。事前にアポイントメントがあれば確実に対応できます。

なかたけんすけ

中田兼介

研究室11 (S305)

☆主な担当科目：

自然環境と生態系、生命の起源と進化、多様性の生物学

☆専門領域：

動物行動学、生態学

☆オフィスアワーとメールアドレス：nakatake@kyoto-wu.ac.jp

水曜日12:10-12:50。これ以外でも研究室にいれば基本的にいつでも応対しますが、メールなどであらかじめ連絡を取ってもらえば確実です。

なかみちひとみ

中道仁美

研究室10(S317)

☆主な担当科目：

地域社会学、ジェンダーと現代社会、基礎演習Ⅱ、フィールド・ワークⅠ・Ⅱ

☆専門領域：

農村社会学、女性学

☆オフィスアワーとメールアドレス：nakamich@kyoto-wu.ac.jp

水曜日昼休み。研究室にいるときは何時でも可ですが、できるだけメールで予約してください。

にしおくみこ

西尾久美子

研究室

☆主な担当科目：

経営学関連科目論

☆専門領域：

経営学（組織行動論、経営組織論）

☆オフィスアワーとメールアドレス：メールアドレスは授業中にお知らせします。

水曜のお昼休み（12時15分～55分）です。アポイントメントのある方を優先しますので、メールで事前に予約を取っておくとより確実です。

はまさき ゆ き こ
濱崎由紀子

研究室26 (S406)

☆主な担当科目：

精神医学概論、比較文化精神医学

☆専門領域：

精神病理学、思春期精神病理（ひきこもり、初期統合失調症など）

☆オフィスアワーとメールアドレス：hamasaki@kyoto-wu.ac.jp

水曜12:10～12:55

ふじいたかみち
藤井隆道

研究室33 (S413)

☆主な担当科目：

仏教学Ⅰ、Ⅱ、仏教思想A・B、人間学

☆専門領域：

インド哲学・仏教学、宗教学

☆オフィスアワーとメールアドレス：fujiita@kyoto-wu.ac.jp

水曜昼休み。その他の時間も相談に応じます。メールで予約してください。

まさき だい き
正木大貴

研究室9 (S303)

☆主な担当科目：

心理学アプローチ、人間関係の心理学

☆専門領域：

臨床心理学、精神医学

☆オフィスアワーとメールアドレス：masakid@kyoto-wu.ac.jp

木曜 12 時 10 分～12 時 55 分。事前にメールでのアポイントがあれば、この時間以外でも対応可能です。

もりひさとし

森久 聡

研究室10 (S304)

☆主な担当科目：

都市政策論，市民活動論，環境社会学，フィールド・ワークⅠ・Ⅱ

☆専門領域：

都市社会学，地域社会学，環境社会学，社会調査法（質的調査）

☆オフィスアワーとメールアドレス：morihisa@kyoto-wu.ac.jp

オフィスアワーは木曜日3講時です。事前にアポイントをとったうえで研究室を訪問して下さい。

わたりあけし

亘 明志

研究室31 (S411)

☆主な担当科目：

社会学アプローチ、社会学概論、文化社会学

☆専門領域：

社会学（文化、社会意識、映像社会学、コミュニケーションとメディア、差別問題、戦争と記憶の社会学）

☆オフィスアワーとメールアドレス：watari@kyoto-wu.ac.jp

水曜日の昼休み、もしくは月曜日の3講時、メールで事前にアポイントを取ってください。

き ど ひ で き

城戸英樹

研究室19 (S316)

☆主な担当科目：

行政学、地方自治論、現代北米論

☆専門領域：

地方自治論、比較政治（日本政治、カナダ政治）

☆オフィスアワーとメールアドレス : kidoh@kyoto-wu.ac.jp

火曜日の昼休みですが、柔軟に対応しますのでメールでアポイントを取ってください。

とだまきこ
戸田真紀子

研究室21 (S401)

☆主な担当科目：

比較政治論、国際関係論アプローチ、現代社会入門Ⅱ、現代アフリカ論

☆專門領域：

比較政治学（アフリカ地域研究）

☆オフィスアワーとメールアドレス : toda@kyoto-wu.ac.jp

水曜日12：30-12：50もしくは火曜日5限。メールで事前にアポイントを取ってください。

アポイントを取ってもらえれば、他の時間帯でも可。

とりたにかずお
鳥谷一生 研究室18 (S315)

☆主な担当科目：

経済学アプローチ、マクロ経済学、金融論、国際経済学

☆專門領域：

貨幣金融論、マクロ経済学、国際経済学、国際金融論

☆オフィスアワーとメールアドレス : toritani@kyoto-wu.ac.jp

オフィスアワーは、原則木曜日の昼休みです。

オフィスアワー以外であっても、面談に応じます。但し、電子メールもしくは電話で事前にアポイントをとるように心がけて下さい。

はやしただゆき
林 忠行 研究室7 (S301)

☆主な担当科目：

現代ヨーロッパ論

☆専門領域：

東欧国際関係史、欧州国際関係論、東欧比較政治

☆オフィスアワーとメールアドレス：hayashid@kyoto-wu.ac.jp

月曜日昼休みで、必ず事前予約のこと。

まつださとる

松田 哲

研究室12 (S311)

☆主な担当科目：

国際関係論、国際関係史

☆専門領域：

国際関係論、南北問題の国際政治経済学、途上国開発理論、スリランカ地域研究

☆オフィスアワーとメールアドレス：matsudas@kyoto-wu.ac.jp (@の前のsを忘れないこと)

火曜日と水曜日の昼休み。メールで事前予約をするようにして下さい。

まつもとみつとよ

松本充豊

研究室22 (S402)

☆主な担当科目：

政治学アプローチ、政治過程論、現代アジア論

☆専門領域：

比較政治学、現代台湾政治、中台関係、東アジア政治経済論

☆オフィスアワーとメールアドレス：matsummi@kyoto-wu.ac.jp

水曜日昼休みがオフィスアワーですが、基本的にいつでも研究室に来ていただいてもかまいません。ただし、事前にメールでアポを取ってください。

ジャスティン・アウケマ 研究室14 (S312)

☆主な担当科目：

専門英語 I・II、Japan Studies1・2、基礎演習 II、演習 I・II

☆専門領域：

近現代日本史、近現代日本文学、第二次世界大戦の記憶

☆オフィスアワーとメールアドレス：aukema@kyoto-wu.ac.jp

水曜 3 限

クリス・ポープ 研究室12 (S310)

☆主な担当科目：

専門英語 I・II、Japan Studies1・2、基礎演習 II、演習 I・II

☆専門領域：

政治・メディアコミュニケーション研究 社会的普及理論 国際関係と政治理論

談話分析と混合方法言語学 東アジアにおける環境ガバナンス

☆オフィスアワーとメールアドレス：pope@kyoto-wu.ac.jp

火曜昼休み

なかやまた かお 中山貴夫 研究室2 (S202)

☆主な担当科目：

コンピュータ・ネットワーク I・II 応用ネットワーク、情報文明論、情報ネットワーク

☆専門領域：

情報工学

☆オフィスアワーとメールアドレス： nakayama@kyoto-wu.ac.jp

月曜3限、その他の時間でも在室中は随時対応可能です。メールで事前にアポを取っておく
より確実です。

まるのゆうき

丸野由希

研究室28 (S408)

☆主な担当科目：

プログラミング入門、応用プログラミングⅠ、応用プログラミングⅡ

☆専門領域：

データマイニング、機械学習、プログラミング教育

☆オフィスアワーとメールアドレス： maruno@kyoto-wu.ac.jp

火曜日の 12:10～12:50。事前にメールでのアポイントがあれば、この時間以外でも対応可
能です。

みちこししゅうご

道越秀吾

研究室4 (S204)

☆主な担当科目：

アルゴリズム論、数理モデル

☆専門領域：

情報科学（シミュレーション、数値計算法）、物理学（理論物理学、宇宙物理学）、天文学

☆オフィスアワーとメールアドレス： michikos@kyoto-wu.ac.jp

昼休み（事前にメールで連絡をして下さい）、その他の時間も相談に応じます

みやしたけんすけ

宮下健輔

研究室1 (S201)

☆主な担当科目：

コンピュータ・ネットワーク I，同 II，ネットワーク運用，情報数学，情報理論

☆専門領域：

情報工学、特にネットワーク運用管理手法に関する研究

☆オフィスアワーとメールアドレス：miyasita@cs.kyoto-wu.ac.jp

火曜・1 限（事前にメール等で連絡してください）。